

2018年7月2日

あべのハルカス美術館 2018年後半～2019年 展覧会ラインナップ決定！

「あべのハルカス美術館」では「あらゆるアートを、あらゆる人に。」をコンセプトに、誰もが気軽に芸術・文化を楽しめる美術館を目指しております。2014年の開業から、日本・東洋美術や西洋美術、現代アートなど多彩な展覧会を開催しており、2018年後半は、「太陽の塔」、「生誕120年 イスラエル博物館所蔵 ミラクル エッシャー展」、「驚異の超絶技巧！ 明治工芸から現代アートへ」といったラインナップを予定しております。

さて、2019年は下記のとおり3本の展覧会が決定しました。展覧会の詳細は別紙のとおりです。「あべのハルカス美術館」は、お仕事帰りにもお立ち寄りいただけるよう平日(火～金)は夜8時まで開館しております。今後もターミナル駅直上に位置するメリットを最大限に活かし、より魅力的な都市型美術館として多くのお客様にお越しいただけるよう運営してまいります。

～「あべのハルカス美術館」2019年ラインナップ～

1. クマのプーさん展

会期：2019年4月27日(土)～2019年6月30日(日)
共催：朝日新聞社、関西テレビ放送

2. ギュスターヴ・モロー展 サロメと宿命の女たち

会期：2019年7月13日(土)～2019年9月23日(月・祝)
共催：読売テレビ放送

3. ラファエル前派の軌跡展

会期：2019年10月5日(土)～2019年12月15日(日)
共催：産経新聞社、関西テレビ放送

1



E.H.シェパード、ラインブロックプリント・手彩色、1970年 © Egmont UK Ltd, reproduced with permission from the Shepard Trust

2



《出現》ギュスターヴ・モロー 1876年頃
ギュスターヴ・モロー美術館
Photo © RMN-Grand Palais /
René-Gabriel Ojéda / distributed by AMF

3



《ムネーモシュネー(記憶の女神)》
ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ 1881年 デラウェア美術館
Dante Gabriel Rossetti, Mnemosyne,
1881, Oil on canvas, 126.4 × 61 cm, Delaware Art Museum,
Samuel and Mary R. Bankroft Memorial, 1935

1. クマのプーさん展

会期：2019年4月27日(土)～2019年6月30日(日)

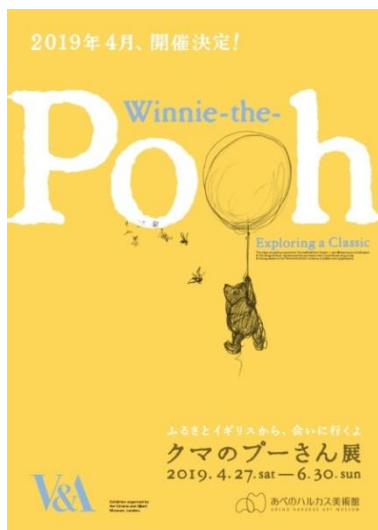
共催：朝日新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨：『クマのプーさん』は1926年に出版されて以降、50以上の言語に翻訳され、5000万部以上のシリーズ本が出版されています。この展覧会は、著者A.A.ミルンと挿絵を担当したE.H.シェパードの貴重な作品とともに、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館をはじめ各国から集めた資料により、世界中で愛される「クマのプーさん」のすべてを紹介する決定版の展覧会です。



E.H.シェパード、ラインブロックプリント・手彩色、
1970年 © Egmont UK Ltd, reproduced with
permission from the Shepard Trust

※貸出不可



クマのプーさん展 チラシ 表



クマのプーさん展 チラシ 裏

2. ギュスターヴ・モロー展 サロメと宿命の女たち

会期：2019年7月13日(土)～2019年9月23日(月・祝)

共催：読売テレビ放送

開催趣旨：19世紀末フランスに花開いた象徴主義の巨匠、ギュスターヴ・モロー(1826-1898)は、神話や聖書をテーマにした魅惑的な女性像で知られます。なかでも、新約聖書などに伝わる「サロメ」を描いた作品は、世紀末ファム・ファタル(宿命の女性)のイメージ形成に影響を与えました。本展ではパリのモロー美術館の全面協力のもと、身近な女性たちからファム・ファタルまで、モローの多様な女性像を紹介し、その創造の原点に迫ります。



《出現》ギュスターヴ・モロー 1876年頃
ギュスターヴ・モロー美術館
Photo © RMN-Grand Palais /
René-Gabriel Ojéda / distributed by AMF



《一角獣》ギュスターヴ・モロー 1885年頃
ギュスターヴ・モロー美術館
Photo © RMN-Grand Palais /
René-Gabriel Ojéda / distributed by AMF

3. ラファエル前派の軌跡展

会 期：2019年10月5日(土)～2019年12月15日(日)

共 催：産経新聞社、関西テレビ放送

開催趣旨:1848年、ラファエル前派兄弟団は英国美術の刷新をめざし結成されました。画壇から攻撃された彼らを擁護したのは、偉大な風景画家ターナーを支援する美術批評家ラスキンでした。その思想はロセッティやミレイ、バーン＝ジョーンズ、モリスらメンバーの精神的支柱となり、多くの追隨者に引き継がれてゆきます。本展では、ヴィクトリア朝美術に輝かしい軌跡を残し画家たちの功績と、彼らを照らしたラスキンの美学をご紹介します。



《ムネーモシュネー(記憶の女神)》
ダンテ・ゲイブリエル・ロセッティ 1881年
デラウェア美術館
Dante Gabriel Rossetti, Mnemosyne,
1881, Oil on canvas, 126.4 × 61 cm, Delaware
Art Museum, Samuel and Mary R. Bankroft
Memorial, 1935



《嘆きの歌》エドワード・バーン＝ジョーンズ
1865-66年 ウィリアム・モリス・ギャラリー
Edward Burne-Jones, The Lament,
1865-66, Watercolour and bodycolour, on paper
laid down on canvas, 47.5 x 79.5 cm, William Morris
Gallery



《カレの砂浜 ―― 引き潮時の餌採り》
ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー
ベリ美術館
J. M. W. Turner, Calais Sands at Low Water: Poissards
Collecting Bait, 1830, Oil on canvas, 68.6 x 105.5 cm,
Bury Art Museum, Greater Manchester, U.K.

【開館時間】

火～金：10:00 - 20:00

月土日祝：10:00 - 18:00

* 入館は閉館30分前まで

【休館日】

一部の月曜日

展示替え期間(不定期)

* 展覧会により休館日は異なります。

【所在地】

〒545-6016

大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階

【最寄駅】

近鉄南大阪線「大阪阿部野橋」駅 直上

JR各線「天王寺」駅

地下鉄御堂筋線「天王寺」駅

地下鉄谷町線「天王寺」駅

阪堺上町線「天王寺駅前」駅 よりすぐ

【アクセス】

